

2009年度

科目名	日本語日本文学特殊講義ⅡA		
担当教員	鈴木 利一		
配当	日文3	コード	43210
開期	前期	講時	木曜日3限
		単位数	2
授業テーマ	『萬葉集』卷十六の研究		
目的と概要	この講義では、『萬葉集』卷十六収載作品を読み進めます。卷十六には、「有由縁雑歌」の標題のもと「うた」とその由縁を記す題詞・左注を付した作品群が収録されています。その内容は、他の萬葉歌巻に比して強い独自性が認められ、まさに多種多様な上代の文芸状況を反映しているものと言えます。調査・作業の過程では、歌言葉にとどまらぬ歴史資料や漢籍等にふれることも必要となるはずですが、これにより文献批判の基礎技術を習得することも講義の目的の重要な要素です。また、卷十六の撰述期は、萬葉集後期、及びそれに続く国風暗黒期に重なります。こうした文学史的観点から、当時の述作の担い手達の諸相にもふれてみたいと考えています。		
成績評価法	講義への参加状況、発表資料・課題等の提出状況、発表や課題に取り組む姿勢等を勘案し総合的に判断します。		
テキスト	『萬葉集』の全歌が、原表記の形で記載されているものならば何でもよい。		
参考書			
履修に当たっての注意・助言	後期開講科目の日本語日本文学特殊講義ⅡBと併せての通年受講が望ましい。講義に参加する者は、必ず前後期一回ずつは、担当者として発表に当たることを要望します。また、当日の発表を担当していなくても全員が当事者としての意識を高く保持し、活発な討議を通してより深い作品理解への到達を目指すことを期待します。		
講義計画			
まず、『萬葉集』卷十六の構成とその撰述が進められた萬葉後期の文学状況について概説します。			
<ol style="list-style-type: none"> 1.『萬葉集』卷十六概説(第1回) 2.萬葉後期文学状況の概説(第2、3回) 3.上代文学研究のための文献とその利用法(第4回) 			
<p>以降の講義形式は演習形式に講義を交えた形態で行い、参加者が『萬葉集』卷十六収載作品を順次担当し「うた」と物語とが、どのように連携して表現世界を形成しているのかを考察します。担当者は、調査をもとに資料を作成し発表していくことになります。講義で取り上げることが予想される作品は以下の通りです。</p>			
<ol style="list-style-type: none"> 4.三七八六番歌(第5回) 5.三七八七番歌(第6回) 6.三七八八番歌(第7回) 7.三七八九番歌(第8回) 8.三七九〇番歌(第9回) 9.三八〇三番歌(第10回) 10.三八〇四番歌(第11回) 11.三八〇五番歌(第12回) 12.三八〇六番歌(第13回) 13.三八〇七番歌(第14回) 14.前期まとめ(第15回) 			